

農作物の生育状況、今後の見通しと対策(1月)

鳥取県農業気象協議会  
(鳥取県農業振興局経営支援課 農業普及推進室 まとめ)  
令和8年1月15日 現在

作物名		生育状況	今後の見通しと対策
作物	麦	・麦類全般について、播種適期の11月上旬の天候が比較的良好であったため、播種の進捗は順調で、一部の排水不良部分を除いて、出芽と初期生育は概ね良好である。 ・二条大麦の「はるさやか」について、農業試験場の播種日が11/7で平年より4日早く、葉齢及び葉色は平年(過去5年平均)並だが、莖丈は長く、分げつが旺盛で莖数は多い。12/19に幼穂形成が確認され、現在の幼穂長は2mm程度である。現地では、11月上旬に播種されたほ場で幼穂長2～3mm程度が中心で、積雪の程度によっては4mmに達するほ場もあるが、11月中下旬に播種されたほ場では、1月初旬時点で幼穂長が1mm以下である。 ・現地の小麦について、琴浦町の11月上旬播種の「はる風ふわり」は、幼穂が形成されつつある。 ・現地のその他麦類について、鳥取市国府町で播種されたもち麦「キラリモチ」、「ダイシモチ」は、一部湿害が見られるものの生育は概ね順調である。	・定期的に排水溝を確認し、必要に応じて排水溝の手直しや、追加設置を行うなどして、滞水が見られる場合は速やかに排水を促す。 ・第一回目穂肥の施用時期が早いと精麦率が低下するので時期を守って施用する。 ・雑草の発生が多い場合には、麦の生育や収穫に支障が生じる場合があるので時期を失しないように茎葉処理剤による防除を行う。 ・今後、積雪が少なく高温が継続する場合は、網斑病の早期蔓延に注意し、必要に応じて防除対応を検討する。
	ナシ	・せん定作業が行われている。	・急な大雪への事前・事後対策を実施する。 ①積雪が多い地域では、大まかな枝の間引きを早めに行う。 ②モウソウ竹等の突き上げ柱を入れて果樹棚を補強する。竹等で主枝・垂主枝を直接支える。 ③幼木は積雪で主枝分岐部が裂けやすいので主幹・主枝を支柱・添竹に固定する。 ④樹上に積もった雪を払い落とす。積雪が増えてきたら雪路みをして深さを減らす。 ⑤降雪が小康状態となり、日が射すようになったら融雪剤を散布する。
	カキ	・せん定作業が行われている。	・急な大雪への事前・事後対策を実施する。 ①モウソウ竹等の突き上げ柱を入れて主枝・大枝・垂主枝を直接支える。 ②枝上に積もった雪を払い落とす。 ③積雪が増えてきたら雪路みをして深さを減らし、埋もれた下枝をかきだす。特に幼木は枝が裂けやすいので意識してかきだす。 ④降雪が小康状態となり、日が射すようになったら融雪剤を散布する。
	ブドウ	・せん定作業がほぼ終了している。	・せん定作業を済ませる。 ・ハウスのビニール被覆を行う場合は、降雪等の気象情報に十分注意する。 ・ビニール被覆後の降雪への対応として、ハウスのアーチ中央を鋼管・モウソウ竹等で突き上げる。谷部分に溜まった雪はビニールを開けて落とす。加温機がある場合は、温度設定を高めにして融雪を促す。
野菜	白ねぎ	【春ねぎ】 ・年末から年始の降雪により葉折れや一部で雪解け水により湿害が見られるが、全体的に生育は順調。 【夏ねぎ】 ・年内に定植した作型は生育は順調であるが、年始の降雪により苗のつぶれが見られる。排水の悪いほ場では一部で湿害による苗の消失が見られる。 ・年明け以降定植する作型では順次育苗が開始されている。 【秋冬ねぎ】 ・年末年始の降雪により葉折れや傷が発生し、一部で雪害規格での出荷が行われているものの、全体的に出荷への影響は少なく、収穫出荷作業は順調に行われている。	・降雪による葉折れは今後回復する見込み。 ・今後の積雪に備えて、支柱やバンド等により葉折れ対策や、降雪前の収穫など雪害への注意喚起を行う。 ・低温期の育苗では過湿にならないよう注意する。
	ブロッコリー	・風雪や低温により生育は停滞しているが、平年並みの出荷量となっている。一部で湿害の発生は見られるが、品質は良好。年始の着雪により、葉折れ、強風による倒伏が散見される。 ・病害虫の発生は特に問題ない。	・初夏どりの播種(育苗)が始まっている。 ・風雪による葉折れ、倒伏により2、3月どりで一部生育遅れが懸念される。
	らっきょう	＜東部＞ ・12月の生育調査の結果、球重、葉重ともに昨年と同等であるが、平年に比べて生育は遅れている。高温干ばつによる植付の遅れやハモグリハエ、黒点葉枯病の発生が原因と考えられる。 ・株当たりの分球数、年内分球芽数はやや少なく、最終の分球数は平年より少なくなる見込み。 ・白色疫病等主要病害虫の発生は見られない。 ＜中部＞ ・生育は概ね順調。 ・積雪後に白色疫病の発生がみられる。	・雪解け後の白色疫病の防除を徹底する。
	トマト(促成)	・定植は平年並みの12月中旬から始まり、1月中旬末までに終了する見込み。 ・生育の早いほ場では2段目の蕾が見え始めている。 ・本圃では病害虫の発生は見られない。	・灰色かび病対策のために適切な換気、予防・防除を徹底する。 ・ハウス施設の雪害に注意するように注意喚起する。
	にんじん	・収穫中。年明け収穫分で、一部しみ腐れ症状、短根が見られる。	・収穫は3月まで続く見込み。
	イチゴ	・頂果期後半から第1陸果期の出荷中。 ・「とっておき」は一部で出荷のぼらつきや芯止まりが見られるが、「堅しろう」は順調に出荷している。 ・一部でアブラムシ、ハダニの発生がみられる。	・冬季に向けたハウスの雪害対策を徹底する。 ・気温が低下してくるので、夜間の保温に努めるなど温度管理に注意する。 ・アブラムシ、ハダニの防除を徹底する。
	シンデッポウユリ	【鉢作型】 ＜東部地区＞ ・12月末から1月中旬頃まで播種が行われる。品種は「F1オーガスタEX」が主。 ＜中部地区＞ ・12月下旬に播種が行われて、2戸が育苗委託、1戸が自家育苗。 【ハウス抑制作型】 ＜中部地区＞ ・出荷は終盤。1月末で終了見込み。年内出荷本数は65,000本(前年比70%、計画比101%)。	・今後、発芽状況を注視する。
	ストック	＜東部地区(積岸作型)＞ ・12月末から悪核病が散見される。 ＜中部地区＞ ・播種～花芽分化期が高温で推移したことから、花芽分化が遅延し生育がバラついている。総出荷本数は計画の56%(約95万本)で、出荷ペースが大幅に遅れている。特にスタンダード系の出荷はスプレー系よりも遅れ傾向。 ・平均単価はスタンダード106円/本、スプレー131円で、高単価が続いている。 ＜西部地区＞ ・花芽分化が遅れた影響で開花がすすんでいない。昨年の3割程度の出荷状況。 ・一部生産者の圃場で、悪核病が発生している。	＜共通＞ ・ハウス内残渣は速やかに片づけ、防除を徹底する。特に悪核病が発生している株は抜き取ってハウス外に持ち出してから、防除する。 ・定期防除を行っているハウスであれば、ハウスを例年より閉め気味にして開花を促す。 ・0℃を下回る日は、凍害対策のため午後から早目にハウスを閉めて保温する。
飼料	イタリアンライグラス	・生育は、概ね順調であるが、一部、播種が遅れた圃場の生育が遅れている。	—

【農作業安全について】  
農閑期でも、これまでに圃場準備や片付け等で農作業事故が発生しているので、気を緩めず、事故防止に努めましょう。